

令和3年7月29日付【水道産業新聞】  
 下水コンセッション事例が最優秀発表  
 技術研究発表会<田中宏明・京大名誉教授が講演>

下水コンセッション事例が最優秀発表

水コン協  
 技術研究発表会  
 田中宏明・京大名誉教授が講演



村上会長

全国上下水道コンサルタント協会は、このほど、技術研究発表会をオンラインで開いた。約400人が参加し、12編の発表から技術委員の選考により、最優秀・優秀発表者を表彰した。また、田中宏明・京都大学名誉教授が「最近の水環境の課題と水質管理への影響」と題して特別講演した。

村上雅亮会長（NJS社長）は、「政府の『骨太の方針2021』では、4つの原動力として、1番目にグリーン化、2番目にデジタル化が挙げられた。これらから環境問題を軸に社会が大きく動いていく中で、ポ

ストコロナを契機に、水コンサルタントの活動もさらに広がることを考えている。そのために私たちはもっと考え、工夫し、技術開発を進める必要がある。今日の発表会がステップになればと期待している」とあいさつした。

最優秀発表者には、岡田一也氏（NJS）の「企業調整」領域を含むPPPスキームの研究と実践―須崎市コンセッション事業における取組み―が選ばれた。NJSは、運営事業者のクリンパートナーズ須崎の代表企業として参画している。公共下水道と漁業集落排水事業、クリンセンターなど他のインフラの類似の業務を統合する「バンドリング」手法による効率的な事業運営が特長で、AIを活用した運転管理支援システムや、ド

ローンによる雨水管きよのスクリーニング調査など、先端技術を積極的に導入した維持管理に同社の技術の強みが発揮される。

優秀発表者は、畑瀬大樹氏（NJS）の「工業用水道事業における官民連携手法の事例報告―導入可能性調査と熊本県工業コンセッション事業―」、佐藤優斗氏（中日本建設コンサルタント）の「下水水温の成分分解による雨天時浸入水量割合の推定」。

特別講演で田中名誉教授は、海域の水環境保全政策と水インフラの課題について、先の国会で成立した改正瀬戸内海環境保全特別措置法など、最新の動向を交えて紹介

従来は国による水質規制が中心だった水環境行政が、海域や季節ごとにより細かいな管理を行う方向に大きく転換し、瀬戸内海においても、閉鎖性水域の高栄養化対策で規制されてきた栄養塩類の不足による生態系や水産資源への影響に配慮し、関係府県知事が栄養塩供給の実施方法などについて管理計画を策定できる制度が導入された。下水処理に關しても、高度処理導入のインセンティブが低下する一方、生物処理においては、冬場に供給した栄養塩を夏場に削減するなど、安定した季節運転が求められる。

新型コロナウイルス感染症の流行を早期に検知できる下水疫学調査の可能性に期待が高まる中、田中名誉教授らの京大グループは、個別施設の排水のサンプルで陽性患者1人の同定に成功した。下水管網と高齢者施設など個別施設を組み合わせた調査により、感染拡大地区で感染者を早期に見ることができる可能性が広がる。